

## 6) 抄網類

### 102 モジャコすくい網〈五島編〉

調査地 福江市久賀島

#### 1) 漁具

##### (1) 見取図および網地展開図、浮子・沈子配置図

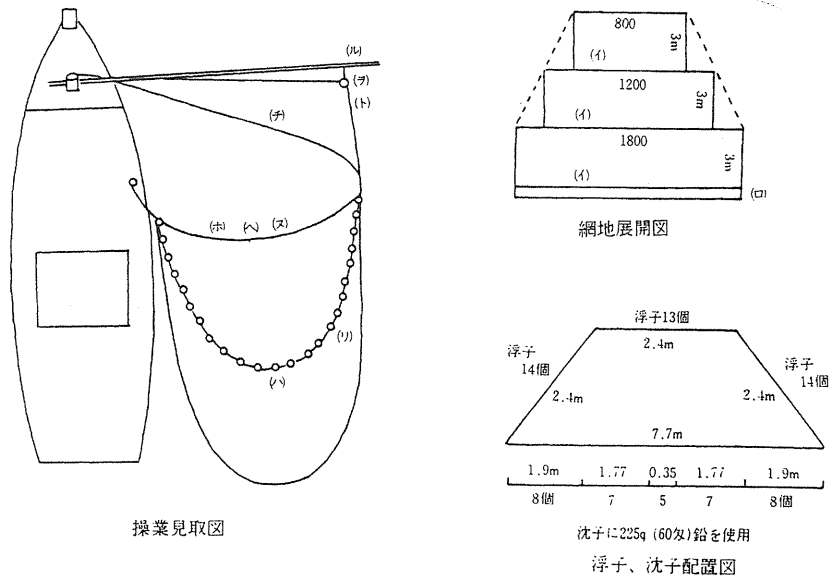


図102 見取図および網地展開図

##### (2) 漁具仕様

表102 仕様表

符号	名称	材質	大きさ又は太さ	長さ又は重さ	個数	備考
(イ)	身網	ナイロン	9本32節	2間切り	38反	
(ロ)	縁網	〃	21本11節	3目, 18m	1枚	沈子方のみ
(ハ)	浮子綱	クレポリ	12mm	7.2m	1本	
(ニ)	目通し綱	クレモナ	3mm	〃	〃	
(ホ)	沈子綱	クレポリ	12mm	7.7m	〃	
(ヘ)	沈子添綱	〃	〃	〃	〃	
(ト)	滑車綱	クレモナ	〃	10m	〃	滑車綱と引寄せ綱1本ものを使用
(チ)	引寄せ綱	〃	〃	〃	〃	
(リ)	浮子	合成樹脂			41個	ビニコン G3.5 浮力1,900g
(ス)	沈子	鉛		225g (60匁)	35個	
(ル)	張竹	竹		5m	1本	
(ヲ)	滑車	木			1個	

#### 2) 漁法

夜明け頃漁場に着くように出港し、漁場につくと流れ藻の探索とモジャコの付きを調査し操業を行う。操業は流れ藻を右舷にもってくるように微速で操船し、張竹についた滑車綱を引きながら投網する。船が右に曲がりながら流れ藻を網の中に取り込むと、一人が舷側に結んだ沈子綱を船上に引き上げ、もう一人が滑車綱を引いて網を上げた後、引き寄せ綱を引きながら滑車綱を少しずつゆるめ網を船内に取り込む。流れ藻を取り出しモジャコを生簀に入れて操業を終了する。このようにして流れ藻探索と操業を繰り返す。

#### 3) 使用漁船および乗組員

使用漁船は5トン50馬力で乗組員は3人である。

#### 4) 漁期・漁場

漁期は5月中下旬の20～25日ぐらいで、漁場は五島西沖から男女群島にいたる潮境が中心となる。

5) 漁獲物

モジャコ (10cm位のブリの幼魚)

103 イカすくい網 <北松編>

調査地 生月町老部

沿革 従来は普通のタモ網を用い、イカの濃密群に被せて、ねじるようにして漁獲していたが、昭和48年(1973年)生月町老部の中村進氏によって考案され昭和56年(1981年)当時に至っている。

1) 漁具

(1) 見取図および網地展開図

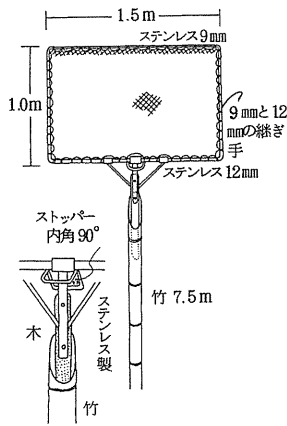


図103-1 一般構成

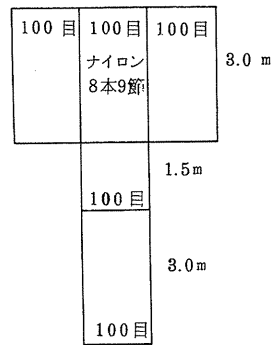


図103-2 展開図

従来のタモ網と異なり、網枠が柄のつけ根で90°回転するように作られているのが特徴である。

2) 漁法

日没前に漁場にアンカー掛けし、日没後集魚灯を点灯し、船首と船尾側に網を一つずつ置き、イカ釣り(別項参照)をしながら濃密群の来遊を待つ。船底近くを遊泳する濃密群を見つけると、群に近い方の網をとり、左手で柄を持ち、右手で網の袋尻を引っ張り、網枠と柄が直角になるようにして柄を握る。そのまま一気に群の中に網を押し込み、イカを入網させ、柄を引き上げる。柄を引き上げる時には網枠が下に垂れ、網口が閉じられるようになるため、入網したイカは殆ど出ない。

この漁法は魚群をとらえる勘と力が必要である。

3) 使用漁船および乗組員

3~5トン、39馬力で乗組員は1人である。

4) 漁期・漁場

漁期は1~3月末(盛期2月)で、漁場は生月島周辺の水深20~40m付近のコボレ瀬のある所。

5) 漁獲物

漁獲物はヤリイカ(ササイカ)である。1日、50回位操業する。1日の平均漁獲量は30~50箱で、これまでの1網の最高漁獲量は150kgである。

操業時間は組合出荷の関係で午前0時までと決められている。